

アイスホッケーゲームにおけるシュート時の状況分析 —ゴーリーのスキル向上に向けて—

辻本 匡利 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 吉川 文人

キーワード：ゴーリー、シュート、ゲーム分析

1. はじめに

日本において、アイスホッケーに関する研究報告は少なく、パフォーマンスや戦術の研究は極僅かである。また、プレーヤーに関する研究は多いが、ゴーリーに関する研究は少ない。

その中でも、渡部らは、1969-70年度の大学選手権（東京）、全日本選手権、日本リーグのスコアシートを対象として、シュート数と得点及び勝敗の関係について分析し、シュート数が64本以上の時に勝利する確率が高いと報告している。しかし、渡部らの研究は40年以上前の古いデータであるため、新しいデータを収集する必要がある。そこで、本研究は関西学生リーグを対象にシュート状況に関する基礎的資料の収集を目的とする。

2. 研究方法

本研究は、2014年9月-11月開催の関西学生リーグ1部Aリーグの8試合を対象とし、実際の試合映像を収録した後、下記の3項目について記述分析を行った。

1. シュート数
2. シュートコース
3. シュートエリア及びシュートコースの得点率

3. 結果および考察

総シュート数は458本であり、総得点数は44本であった。上記より、得点率は約10%であった。図1より、シュート数はエリアB左が96本で最も多く、エリアC右が57本で最も少なかった。また、図3より、各コースにおいてはコース下が230本で最も多く、コース上右は37本で最も少ない結果となった。

図2より、得点率はエリアCが57%で最も多く、ゴールを基準にシュート位置が遠距離になると得点率は減少し、近距離になると増加することがわかる。また、図4より、コース上(41%)、中(30%)、下(30%)の得点率における差異は大きく見られなかった。これは、各コースのシュート数の差が原因であると考えられる。コ

ース下は、シュート数が多く得点数も多いが、コース上右はシュート数が少なく得点数は他のコース(コース下を除く)と比較すると差異はなかった。そのため、シュート数に対する得点率はコース上右が約16%で最も高いことがわかる。対照的に、コース下は約8%で最も低かった。上記より、コースが上がるにつれシュート数は減少し、対照的に、コースが下がるにつれシュート数は増加する。一方、コースが上がるにつれシュート数に対する得点率は増加し、対照的にコースが下がると減少する結果が得られた。

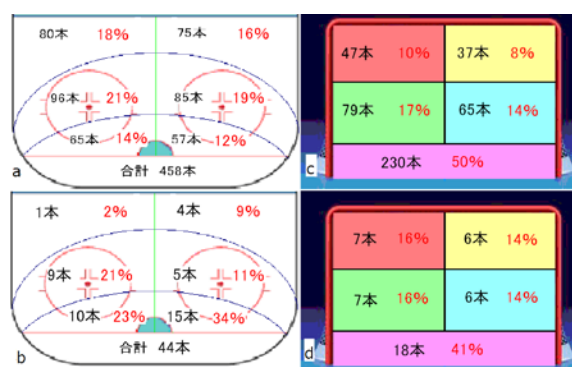


図1 a. 各エリアのシュート数とシュート率

図2 各エリアにおける得点数及び得点率

図3 各コースのシュート数及びシュート率

図4 各コースにおける得点数と得点率

4. まとめ

本研究結果より、プレーヤーのシュート練習時にシュート数に対する得点率が高いコースへシュートを放つことは、プレーヤー、ゴーリー共に競技力向上に繋がる練習である。なお、今後試合数を増やし研究を行うことで、さらに明確なシュートに関する基礎情報の取得が可能である。

引用・参考文献

渡部馨, 片山晋次 (1971) アイスホッケーのゲーム分析より (1) ショット記録についての考察 苫小牧工業高等専門学校